

私は社会の軸だった。 私の軸は何だろう？

戦後日本は世界有数の経済大国へと成長した。

がむしゃらに働き、生活も便利になり

ものが溢れるほど豊かになった。

世間からは団塊の世代と言われ

社会の軸となって日本を引っ張ってきた。

今、社会の第一線から退きあらためて思う。

私の軸はいったい何だったのか？

会社、家族、健康、お金、

信頼関係、名声、日本経済……

今まで確かだと思っていたものが

年月を重ねるごとに壊れ失われていく中で

自分の思い描いた通りにならなくても

ぶれることのない人生を歩みたい。

求める人生から、感謝する人生へ。

これからの私。

心からありがとう

退職後、価値観はそんなに変わったようには思いませんが、お寺でお聴聞するようになって、温和になった気がします。あと、自分の周り、特に家内に対する感謝の気持ちが強くなりましたね。仕事がハードだったので、家族は大変だったと思うんです。よくついてきてくれたなと。だからこそ、家族への感謝の思いが強いですね。



肩書という鎧を脱いで

働いている時は毎日が競争でした。しかも会社では「NO」はありません。白でも黒と言わざるを得ないことも。かなりのストレスでした。

退職してからは、お寺で異業種の方と付き合いようになり、縦社会から横社会になりました。私は昔の肩書ではなく「〇〇さん」の呼び方にしています。お寺に行くとフラットな関係になれるのがいいですね。

お役をいただいて

お寺と関わって3年ほど経った時、世話役の順番が回ってきたんです。まだ新米で分からないことばかりでしたが、周りからの勧めもあって引き受けることにしました。家内も婦人会の役員になったので、これまでに以上に夫婦でお聴聞するようになりました。



定年後の人生に広がり

今は仏教講座や仏壮活動を通してお寺と関わっています。うちのお寺の仏壮では、子ども会への関わりが活動の潤滑油となっています。孫世代に何か役に立ちたいという思いを共有することによって連帯感が生まれています。これからも周りの力を結集して、活動を他の分野にも広げていきたいです。

お寺に来られた回塊世代の方にうかがいました。

Let's 前 仏 ツイト

ターニングポイントはお寺

住職に誘われて西本願寺の親鸞聖人750回忌大遠忌法要に参拝しました。その時、何かを感じ、私の気持ちが変わったような気がします。それ以降、お寺での法座や仏壮の例会、山口別院での行事にはできるだけ参加するようにしています。



今になって

定年後、実家に帰って十年。初めてお寺にお参りしたのは、現在のご住職のおじいさんにあたる明治生まれの先々がいられた頃でした。

若い私には仏教のお話は全く分かりませんでした。が、ご住職から頂いた言葉は「わからんでええ。わからんでええから、これからずっとお寺に参りなさい」でした。お寺にお参りするようになった今でも、あの言葉が忘れられません。



実は会社のおかげでした

働いていた時は、社会貢献しようという思いはありませんでした。退職した時に、形は何であれ、社会に貢献したいと思ったんです。それと同時に地元ともつながりを持ちたいと思いました。振り返ってみると、会社の経営理念に「社会貢献」があり、それが今地元やお寺と関わっていききたいということにつながっている気がします。これからもお寺とつながっていききたいですね。

燃え尽きた後は...

勤めている時は、毎日決まった時間に出勤していましたが、その束縛から解放されました。肩の力が抜けたと思うと同時に何だか漠然としたさみしさも感じます。



仏壮とは何ですか？

仏教壮年会を略して「仏壮」といいます。壮年世代（40歳代〜70歳代）は大きなエネルギーを持って、社会でも家庭においてもガムシヤラに生きている世代です。

しかし職場や地域、そして家庭の中でもホッとできる場所が失われつつあるのが現代。「ホン



仏壮には四十代五十代の現役の方はもちろん、定年を迎えられた六十代七十代の方も多く参加されています。



本願寺山口別院

浄土真宗本願寺派山口教区教務所 山口市小郡花園町3-7

Tel083-973-4111 Fax083-973-4631 <http://yamaguchibetsuin.net>